

検討テーマ：「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
子どもの参加	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の参加は多いが、一番力になる若い人・子どもの参加が少ない。 ○中学生のための実践訓練、受け入れ態勢をどうするか考えている。態勢を整えないと何もしないで帰ってしまうことが考えられる。 ○部活動や小学生でもスポーツをやっている子などは参加が難しい。地域の防災訓練に参加出来るような条件にする、学校の方で時間を作るなどの環境があるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4月に錦田中学へ伺い訓練の日を伝え応援してもらえるようお願いした。訓練に参加した証明書を発行するなど、多くの参加者を得られるよう取組んでいく。 ○小さいお子さんは人形劇や着ぐるみなど物語的なもの、アニメ、イベントなど楽しいと思えることがあると参加しやすいのではないか。 ○町内会自主防災と子ども会と一緒に防災訓練を行い、お土産にとうもろこしを用意するなど楽しめる工夫もする。 ○教育の中で防災意識を高め、防災活動に参加する子どもたちを育てていきたい。
防災組織の体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練は10年間やっていない ○建物の下敷きになった場合の救出救助は自主防災会の役割。住民が危機意識を持ち防災訓練にも参加する方法を考えて欲しい ○防災訓練に熱心な町内はコミュニケーションが取れている。住民の触れ合いの場をいかにもうけていくか。 ○幼稚園児の避難は大変なので地域のつながりが大切。昨年は南高と避難訓練を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中島町内会では自主防災の対策強化委員会を結成し、委員長は震災被災した場合に指示命令が出来るようにした。同時に女性のリーダーも登用した。 ○ジュニア防災士育成を一昨年から実施。 ○自主防の場合、毎年委員が代わる。中島自治会のようにサポートしてくれる方が複数年に渡ってやってくれる仕組みを考えていきたい。
地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ○新しいアパートの30軒が参加したがない状況。自治会の活動にも参加したがない若い方をどうやって自治会に取り込んでいくのか困っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもは地域の宝事業や、夏祭りなどをきっかけにしたい。 ○若い世代を取り入れていくため、普段から若い人にも積極的に話しかけて欲しい。
高齢者支援	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者で1人住まいの方は住宅の耐震化はあまり行わない。 ○高齢者の方の避難は難しい。災害時は自宅待機したほうがいいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中区は老人会がない、集まる場所もない、災害時これでは危ないと昨年「ひだまりの会」を立ち上げた。 ○中区は地域的に孤立していて買い物弱者もいるので、朝市など行えないか。

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
子どもの参加	<ul style="list-style-type: none"> ■防災訓練では危険なチェーンソーなどはやめて子どもが取り組みやすい項目を増やしたが、やはり子どもの参加は少ない ■夏祭りのイベントに防災訓練をからめ、消火器・炊き出し体験、小学生は同時に飯盒炊飯を実施。町内の子ども全員が参加した。子どもの参加を増やす一つのきっかけ作りになる。 ■子ども達は乾パンをもらいにくる。備蓄用の乾パンを分けている。 ■中学生は平日昼間災害が起こった場合、一番活躍できる。何らかの形で地域の役に立てればと思っている。防災訓練の子ども達の受け皿があれば出席を促すことが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの参加しやすい項目に取り組んでいきたい。バケツリレーやリヤカーで人が人を運搬する訓練など。 ■子ども会役員に参加協力を頼むと良い。 ■市で地域防災の日を設定してほしい。全学校を午前終了とし、午後各地域で防災訓練を実施すれば、部活動や幼稚園や小学校など広範囲の協力・連携もとりやすくなる。 ●中学生の役割 (AED・運搬・炊き出し等) を、各自主防災会でしっかり考えてほしい。
防災組織の体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ■自治会で独自の防災マニュアルを作成。7組あるが、各組防災リーダーを4人ずつ選出し毎年研修会を実施。防災意識の向上につながる。 ■中島町内会では、自主防災会を対策強化委員会とし、男女それぞれをリーダーとして推進委員を設置。自主防災会の委員長は町内会長と同じ権限を持つシステムを町内に徹底した。 ■組織の強化については、役員が毎年かわるため、特に防災は訓練まで前年度の委員長や委員が必ずサポートしている。 ■3.11 から二年半が過ぎたが、大震災を風化させない土壌づくりも大事。地域づくり、きずなづくりに苦心すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ■中自治会では自主防災組織をしっかりしたものにするため、消防団のOB会(20名ほど)に依頼・協議中。 ■多呂自治会では中島町内会のように、自主防災会を別組織として立ち上げ始めている。 ■保健委員としてサポートできる活動がある。防災訓練時の救護やAEDの講習会など。 ■他地区の事例だが、富田町では高校生が防災委員になる。また防災リーダーは4～5年継続するので、安心できる。 ●富田町も素晴らしい防災組織を作っている、是非参考にされるといい。

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
地域の連携	<p>■三島パサディナ自治会は、山中なので各組が草取りを年3回実施。また夏祭りでは組ごとに出店を運営。活動の中でつながりができている。</p> <p>■若葉保育園（函南町間宮）は三島函南広域行政組合立の保育園で函南の子ども半分、三島の子ども50人弱を預かっている。地域の老人会との交流は活発だが災害時の協力体制はなく不安。</p> <p>■今まで接点のないところとも、つながりを発想してもらいたい。</p> <p>■町内に子ども会と行う行事が年3回ある。町内4役が出席して一緒にゲームをし、その中であいさつは何のためにするのかを話す。小学生は見かけるとよく声をかけてくれる。三つ子の魂百まで。小学生の時に人間関係を構築することで中学生でもあいさつしてくれる。</p> <p>■登校時、交通指導しながらあいさつすると、小・中・高校生からも返事がある。</p>	<p>■地域の連携と高齢者の問題は同じで、基本はあいさつ運動。役員に声かけを推奨している。散歩中にあいさつする姿が多く見られる。もっと広めたいと思う。</p> <p>■定年を迎えた方、元自治会長などが防犯パトロールを実施。小学校からも父兄に協力を要請している。</p>
高齢者支援	<p>■お年寄りへの声かけは、引きこもり防止になる。</p>	<p>■中地区は買い物しにくい地区。高齢世帯の農家が近くで野菜を販売する場所があると良いという話があった。週一回程度で朝市を開催し、野菜や雑貨を売る機会があるといい。</p> <p>●要援護者リストを受け取ってもらったと思うが、それぞれの自治会で対策を立て、具体的な取組にしていってほしい。</p> <p>●笛も防災訓練時に実際に吹き、音の確認をしてほしい。</p>